

苗木生産現場における直挿しコンテナ苗育成技術の導入（2）

～ スギ少花粉品種4系統の直挿しコンテナ苗木の成長 ～

1 はじめに

当センターでは、スギ挿し木コンテナ苗の効率的な育成に向けて、直挿しコンテナ苗育成技術の開発に取り組み、令和2年度からは、苗木生産現場での本技術の導入が始まった¹⁾、²⁾。既報¹⁾では、技術導入した苗木生産現場でのスギ少花粉品種4系統の発根状況を報告したが、今回は、発根後1生育期が経過した直挿しコンテナ苗木の成長について報告する。

2 方法

直挿しの取組および調査実施場所、供試系統、穂木の調整方法、使用したコンテナおよび用土、挿し付け本数、挿し付け(2020年5月20日)後から2020年10月末までの管理方法は、既報¹⁾と同じである。同年11月以降の育苗方法は表1のとおりである。

2021年10月(挿し付けから1年5ヶ月後)、苗木の生育状況、苗高、根元径を調査した。

3 結果と考察

挿し付けた全本数(n=504)のうち、枯死苗は2本のみで、それ以外は健全に生育していた。

健全苗(n=502)の苗高は43±8cm(平均値±標準偏差、以下同じ)、根元径は6.6±0.9mmだった。また、形状比は50~70台が最も多く、健全苗の7割以上を占め、平均では65±13だった。

岩手県のスギコンテナ苗規格である苗高30cm以上を満たす苗木の割合は95%だった(図1)。

表1 直挿しコンテナ苗の育苗方法

時期	区分	管理
2020年11月	冬仮植	コンテナを寄せて倒し、土を被せる
2021年4月	雪起し 施肥	被せた土を除去し、コンテナを起こす 緩効性肥料を散布
4-6月上旬	日覆	寒冷紗を設置
4-10月	散水	2日1回 30分程度の散水(夏場は毎日)
6-7月	追肥	複合肥料を2回散布

(注) 2020年11月～2021年10月の育苗状況

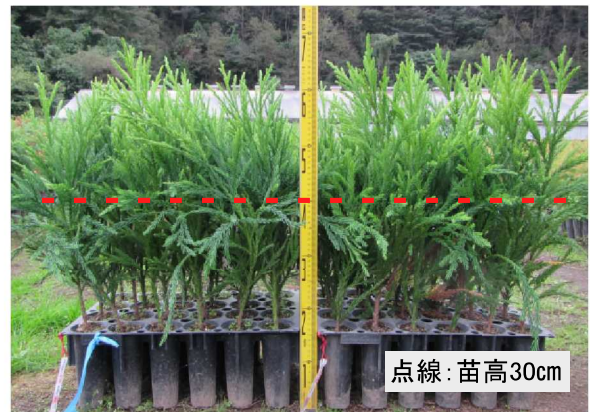
4 成果と今後の進め方

直挿しでは、発根後も成長が良好で、挿し付け1年5ヶ月で山行き苗を育成することができた。発根苗を移植して育苗していた従来方法に比べて、直挿しでは、育苗期間約1年の短縮が可能になる。

今後は、山行き苗として出荷される際に、直挿しコンテナ苗木の根鉢形成状況を注視していく予定である。

【参考文献】

- 1) 岩手県林業技術センター研究成果速報 No.362
- 2) 岩手の林業 令和3年9月号 p6-7



直挿しコンテナ苗生育状況(2021年10月)

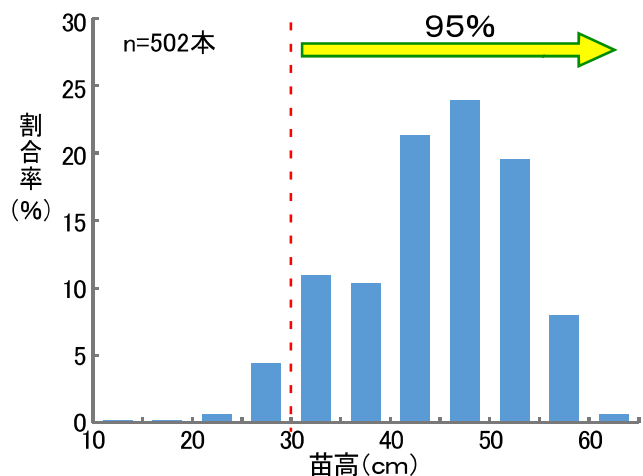


図1 直挿しコンテナ苗木の苗高の頻度分布
(担当者 研究部 主査専門研究員 丹羽花恵)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
岩手県林業技術センター
ホームページアドレス : <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536
FAX 019-697-1410